



①各団各隊の活動報告



第7号 平成26年9月30日
編集・発行
日本ボーイスカウト愛知連盟
尾張東地区 組織拡充委員会
広報部会 編集・発行
編集責任者 野村 典孝

◇「ビーバーたいおわかれ会」

春日井第5団

ビーバー隊 鈴木 元太

今日は、ビーバーたいさいごのしゅう会で、しきの森でバーベキューをしました。ぼくとあやちゃんは、カブたいへ上しんするので、もうビーバーがおわってしまうのかと思うと、さみしくてたいちょうさんに、だきついてしまいました。そして、「今まで、ありがとうございました。」と、いいました。さみしいけど、カブたいに入って、カッコいいせいふくをきて、色いろなことにチャレンジしたいと思います。

がんばるぞー オー



◇「へんしんビバレンジャー」

春日井第2団

ビーバー隊副長 中島 正樹

3月の晴れた空のもと、みんなでビバレンジャーに変身して、森の平和を守りました。最初はビバレンジャーとしての訓練を行い、その後、森をよごすワルインダーとの対決！見事にワルインダーをやっつけて、森の平和を守ることができました。ワルインダーには、指導者のほか、みんなのお父さんやベンチャー隊のみんなにも協力してもらい楽しく遊ぶことができました。これからもみんなで仲良く遊んでいこうね。



◇「小牧四季の森－遠足」

犬山第5団 ビーバー隊

隊長 安田 正昭

犬山第5団ビーバー隊は8人みんなわんぱくな元気な隊、6月22日（日）雨が今にも降りそうないや～な天気、でも楽しみにしていたプログラム中止はいやだ！小牧四季の森へさあ出発だ！！途中、ビーバーの畑によって一仕事、6月1日にみんなで植えた“さつまいも”の草取り、みんなカッパを着て真剣に作業？・・・“カエル”・“バッタ”が少し気になるが豊作間違いなし！小牧市民四季の森に到着、まずは“ポニー”・“ニワトリ”にあいさつをしてから公園の中へGO!!大きな岩に乗って記念撮影みんな最高の決めポーズ気分は最高潮！！雨のため楽しみにしていた“ソリスベリの丘”では遊べなかったけど、遊園地では楽しく遊びました。おやつハッピーターン・カルピスみんなで分け合って食べました、おいしかったよ。楽しい一日でした。**ビーバーの畑で草取り、みんな真剣！**





小牧市民の森 みんな元気な決めポーズ

◇「スーパーカブになって」

日進2団 カブ隊
八家 麻莉奈



私は、スーパーカブになって思ったこと、わかったことが3つあります。1つ目は、チャレンジ章40個達成できたことは、リーダー、お母さん、お父さんの協力があったからだということです。2つ目は、同じ団の子でも違う学校の子と友達になれたり、カブラリーなどで他の団の子とも友達になれてとてもうれしかったことです。3つ目は、チャレンジ章10個達成するためには、こつこつとあきらめずに挑戦することが大事だということです。

ボーイになったらカブの時よりももっといろいろなことにチャレンジして、いっしょけんめいがんばりたいと思います。

◇「募集イベント」

日進第2団
勝田 裕子

夏休み初日の募集イベントは、①チーム対抗ゲーム合戦で盛り上がり、②森の中でのカレーはおいしいことこの上なく、③迫力満点キャンプファイヤーの豪華三本立ての恒例行事でした。今年はベンチャー隊&団委員作成の4.5メートルの見張り台がお目見え。スカウトはもちろん、体験の小さい子どもたちは安全ベルトをして、緊張の面持ちで天空を体感しました。そして、郷土のゆるキャラ「ニッシー」も一日入隊！？巨大な体に合う特大チーフをしてスカウト体験。夜はスタンツ「三匹の子豚」でオオカミとスイカ割り対決の場面もあり。着ぐるみの中にはベンチャースカウトMくんが汗だくになっての大奮闘でした



◇「コミュニケーション力アップ！！地下鉄ポイントラリー」

日進第2団 カブ隊
リーダー八家 和泉

5月11日、1日乗車券を使って「地下鉄ポイントラリー」をしました。隊長から1つ目の指令文をもらい、名古屋駅噴水広場まで移動。指令文には「イケメンのお兄さんと写真を撮らせてもらう」とのこと。辺りを見回してイ

ケメンのお兄さんを発見！！一人のスカウトがドキドキしながら声をかけて、お兄さんの快諾をもらい、はにかんだ笑顔でハイポーズ。



2つ目の指令文には「名城公園でかわいい女の子と写真を撮ってくること。」若くてかわいいお姉さんに、今度はみんなで声をかけてピースサイン。知らない人に声をかけてコミュニケーション力もどんどん上がっていきます。最後の指令文は「東山動植物園のヤブイヌの前で写真を撮れ」ルールとして地図を見てはいけないので、広い動物園の中でも周りの人に声をかけてヤブイヌの場所を探し当てることに成功。ミッションを3つクリアして、スカウトとしてコミュニケーション能力に自信がついた1日になりました。



◇「夏のキャンプ」

大口第1団カブ隊
隊長 石岡 健治



7/26（金）から、岐阜県の揖斐川町春日村に2泊3日のキャンプに行き、自然観察官にチャレンジしたり、ハイキングしたり、ペットボトルで水鉄砲を作った的当てしたりしました。ベンチャースカウトたちが、頑張ってくれたおかげで、カブスカウトはとても楽しく活動できました！

◇「富士山に登ったこと」

北名古屋第1団
カブ隊 小川 颯太

8月1日から8月4日 富士山天気 晴れのち雨 ぼくは、三泊四日のキャンプをしました。場所は、山中野営場でしました。山中野営場ではクラフト制作をしました。楽しかったです。富士山に登りました。富士山に登るのに八時間かかりました。なので、ごはんのカレーライスがとても美味しく感じました。昼間の空が海に見えました。きれいでした。もう少しの階段もきつかったです。最初は、こんな天気で大丈夫かな、と思いました。が、だいぶ上まで行くと、いい天気だったのでほっとしました。空気が少ないので、歩きにくかったです。でも、高山病にはなりませんでした。そして、寝るときは、足がつめたかったです。布団にもぐった時は、体がぽかぽかしました。朝1時に起きて、それからねむれなくなりました。ずっと、起きています。「ご来光を見に行くよ」と、デンリードに呼ばれました。そしてご来光を見て「きれいだなぁ」と、思いました。そして、下山していくと九合目や本八合目が早く感じました。ネックウォーマーやジャンパーを着ていましたが、下山していくうちに「あつい」と思いました。そして下へ行き五合目に着いたときのお弁当は美味しかったです。その後のお土産を買うのに、時間がかかりました。「いそがなきや」と思いながら走っていくと、まだ、みんながバスに乗っているところだったのでほっとしました。その後の温泉は気持ちよかったです。その帰りのバスで、ぼくは、ぼくすいしてしまいました。「あれ、もうついたの」と思い、荷物を持って、それから家に帰って、また寝ようと思いました。けれど、ぜんぜん眠れませんでした。「ああ眠たいのになぁ」と思いなが

らいると1時ぐらいにやっとねむれました。
富士山に登った思いでは、とても印象にのこりました。また、家族で行きたいです。そして、みんなの思い出をつくりたいです。



◇「緑の羽根募金活動」

春日井第3団 カブ隊
齊藤 柚季

最初はあまり元気がなかったけど、だんだん
なれてきて、大きな声で「緑の羽根の募金よろしくおねがいします」と言えたのでよかったです。最後にお金を数える時はいっぱいあったのでびっくりしました。とくにおどろいたのは、500円玉が1枚あったので、すごくビックリしました



◇「ドッチビー大会」

江南3団カブ隊
くまスカウト 今井 結月

わたしは、6月29日に大口北小学校でドッチビー大会をしました。江南1団と、江南3団と大口のカブ隊が集まって試合をしました。今日は、3団の1組と2組がわかれて試合をしました。ほとんど連続で試合をしていたので、はじめはがんばっていたけどだんだんつかれがでてきてしまいました。さいごのさいごでドッチビーをあてられてしまい、終了の笛がなりました。最悪の気分でした。みんなごめんなさい。チームは3位までに入らなかったけど努力賞がとれました。よかったです。



◇「菊スカウト市長表敬訪問」

北名古屋第1団
団委員長 平野 嘉彦

8月25日菊スカウト受章者3名と共に北名古屋市長瀬保 市長を表敬訪問しました。北名古屋市長から激励を受け3名のスカウトは感激し気持ちを新たにベンチャースカウトにおいては富士スカウト章を目指す決意を表明いたしました。又3名のスカウトは23WSJ派遣に内定したことも報告し激励を受けました。この気持ちを忘れずに自己研鑽に励んでくれることを期待しています。



◇「浜名湖一周サイクリング」

瀬戸第6団 ボーイ隊
副長 野村 勝美

今年度の最初に夏季キャンプは浜名湖一周サイクリングと決めました。そのための体力づくりとして2月に27kmサイクリング、5月に30kmハイキングキャンプ、7月に60kmサイクリングキャンプを実施しました。かなりの体力はついたものの真夏の浜名湖では全員の完走は無理だろうと思っていました。とは言え完走したときの達成感を味わってほしいと思い実施しました。8月15日天気は曇り。スカウト11名が支援して下さったカブ隊長、ベンチャースカウトと瀬戸1ボーイ隊長とともに全員が見事に完走しました。まさかのうれしい誤算でした。全員がキャンプ場に戻って来た時には思わず涙がこぼれそうでした。夜の反省会ではほとんどのスカウトが『楽しかった』『またサイクリングをしたい』と言ってくれました。

スカウトたちの成長を垣間見ることができました。



◇「たっせい！スーパーカブ」

ボーイスカウト小牧第2団
カブ隊 藤澤 隼人

ぼくは、ビーバー隊のときからの目標の、スーパーカブについになることができました。ぼくは同じ隊でスーパーカブをとった人を目標にしていたので、追いつけたといううれしい気持ちでいっぱいです。最後は通信博士でした。ぼくが「チャレンジ章かくとくしました」とうったら、みんなが「おめでとう」と言ってくれたのでとてもうれしかったです。

ぼくはボーイ隊に上がっても、良い章がとれるようにがんばっていきたいと思います。



◇「夏祭りの清掃奉仕活動に参加して」

春日井8団

団委員 野村 多実子

8月2日、3日地元鳥居松商店街の夏まつり会場でカブ隊は清掃奉仕活動を行いました。くまスカウトは上進キャンプ中での参加です、ごみステーションでのごみの分別仕分け並びに路上に放置されたカップや空き缶などの収集と彼らの頑張りには目を見張るものがありました。「みんながやっているから」、「誰も見ていないから」、という会話をなくしていくことが大切ですよね。



◇「立山登山」

春日井 8 団 カブ隊
しか 山田 順平

8 月 22 日からの 2 泊 3 日の舎営で立山の雄山に上りました。歩き初めた頃は景色もよく散歩気分ですぐに歩きました。少し歩くと道はだんだんと急な登り道となり、歩くのがつらくなってきました。途中には雪もあって、つるつるすべり、注意しながら歩きましたが、やっぱりすべって転んでしまいました。途中の一ノ越についたときには、じぶんの限界の半分まできたような感じでした。頂上の小屋がはっきりと見えるので、根性を出して、絶対に登ると決めて、歩き始めました。あと頂上まで 300m のところでほとんど限界になりましたが、隊長がいっぱい励ましてくれたので、根性で登りました。頂上に着いたときは、おわったー、そして やったーと思いました。みんなはお昼を食べていましたが、一緒に喜んでくれました。気がつけば雲の上にいました。そこでのお弁当はとってもおいしかったし、頂上からの景色はとってもきれいでした。初めて 3000m の山に登った自分はすごいと思いました。



◇「楽しかったキャンプファイヤー」

江南第 1 団
カブ隊 2 組 岩井 颯太

8 月 1、2、3 日に長野県の松川青年の家へ行きました。特に心に残ったのは、キャンプファイヤーのスタンプでした。2 組は「ようかい

体操第一」です。初めは全然上手くいかなかったけれど、家で三十回くらい練習して、組集会の時は、リーダーさんにうまいと言われてとてもうれしかったです。本番は少しきんちょうしましたが、さいごまでまちがえずにおどれて、会場 みんなも もりあがって、とても楽しかったです。



◇「夏季野舎営 in 板取すぎのこキャンプ場」

北名古屋第 2 団
植手 厚

北名古屋第 2 団の平成 26 年夏のキャンプ (8/22 から 8/24) は、ビーバー・カブ・ボーイ・ベンチャー隊合同の野舎営となりました。場所は岐阜県板取の「すぎのこキャンプ場」です。今夏の不順な天候で、清涼な板取川は増水。入ることもできず、8/23 土曜午後の豪雨にも遭い、プログラム通りにはいきませんでした。板取川の側面につくられた池で水遊びもでき、4 隊合同のキャンプファイヤーも体験し、思い出深い野舎営となりました。



写真は、キャンプ場近くの白水の滝で、静かな山の中に、それなりに立派で涼しげな滝がありました。龍神様も祭られており、皆で「いいことがありますように」と祈りました。

撤収時には、川向うの県道で、キキィ!ガッシャーン!と車が事故を起こした大きな音がキャンプ場をゆるがし、場内騒然。車の前部が大破していましたが、幸い単独事故で済んだようです。水の事故、交通事故に注意しなきゃと思いを新たにした野舎営となりました。

◇「楽しかった団キャンプ」

江南第1団 カブ隊
1組 中村 彩

私にとって、初めての団キャンプでした。

一番楽しかったのは、二日目のキャンプファイヤーです。カブの女の子たちだけで考えて、ステレオゲームというだし物をしました。自由時間も少し使って、練習をしたので、本番は少しきんちょうしたけれど、せいこうしてよかったです。ほかにも、ハイクなどをした楽しい三日間でした。



◇「団47周年記念『ダンボリー』を終えて」

小牧第1団 カブ隊
隊長 栗本 雅仁

団47周年記念キャンプ『ダンボリー』は、日本列島直撃の台風の中、決行された。もちろん、安全面は十分確保された上での決行である。私自身、台風最中のキャンプは初めてであったが、雨の中でもスカウト達が楽しくキャンプを送れたことに感謝と感激で胸いっ

ぱいであった。今年度は、特に組長・次長の意識付けに重点を置いて従来であればリーダーが口出し手出しするところを、出来る限り次長・組長任せた。不思議なもので、スカウト達は口出し手出しすると、それに従い自主性が薄れるが、任せてやらせてみると、リーダーが思う以上に考えて行動してくれる。そんな組長・次長達を見ていると、カブ隊長をやっている本当に良かったと思える。そしてキャンプ中に9月以降の組長・次長体制についても、スカウト達の自主性を重んじ、今回初めて立候補制をとった。スカウト達は、戸惑いながらも立候補してくれる。中には皆の前では恥ずかしくて立候補できず、あとからリーダーに実は組長をやりたいかったんだと打ち明けてくれるスカウトもいた。それぞれスカウトの思いを、全て受け止められないのは大変辛いけど、これもスカウト達にとっては試練である。この気持ちを大事にしてほしい。

夏キャンプの思い出は、台風でほとんど施設内での雨プログラムであったことと、何よりスカウト達のやる気を教えてくれた大事なキャンプであった。来年は、是非とも晴れたキャンプでスカウト達のやる気を見たいものだ。



◇「チャレンジ章47個完修」

春日井第2団 カブ隊
藤原 光梨

わたしは、チャレンジ章で完修章を取りました。この章を取れたのは、お父さんやお母さん、隊長やリーダーがサポートしてくれたおかげです。



わたしは、うさぎの時、完修章をとりたいたい
なと思い、夏休みや冬休みの日、今年は何個
とろうと目標を立ててやりました。目標にと
どかなかったり、見事にこえたりしながらや
っていくと、チャレンジ章がどんどんたまっ
ていって、タスキのうら側にいくまでが楽し
みでした。わたしが、タスキのうら側までい
ったのは、シカスカウトの時で、その時「やっ
とうらまでたどりついた」と思いました。うら
にいった時は、今度はいつ完修できるのかが
すごく楽しみでした。クマスカウトになると、
楽しみにしていた完修ができて、とてもうれ
しかったです。ボーイ隊でもがんばりたいで
す。

◇「チャレンジ章 40 個完修」

春日井第2団 カブ隊
荒谷 沙璃

私は、カブ隊でチャレンジ章 40 個達成しま
した。チャレンジ章 40 個とるには、母や隊
の隊長やリーダーのおかげなので、おれいが
したいです。私は、とくに「国際」というか目
にくろうしました。なんども泣いていやにな
ったこともあったけど、隊でひょうしょうさ
れるととてもうれしかったので、つづけたら
スーパーカブになれました。だからボーイ隊
ではターゲットバッチを 53 種完修したいので
がんばります。



◇「夏キャンプ」

春日井第3団 団委員
伊藤 由美子

8月8日9日に岐阜県の岳見高原キャンプ場
で、夏キャンプを行いました。
当初は、4日間の予定で計画していましたが、
台風の影響で2日間となってしまいました。
1日目は電車で近くの駅まで行き、ハイクしな
がら現地到着。夜は花火をしたり楽しみまし
た。残念ながら、2日目は台風が近づき、早々
に撤収となってしまいました。指導者、
リーダーの早めの判断とご指導のおかげで
全員無事に徹営、帰宅することができました。



◇「ドラム缶風呂体験！」

犬山第5団 カブ隊
デンリーダー 牧田 優

犬山第5団カブ隊は、岳見高原キャンプ場で
夏のキャンプを行いました。初日の夜、夕御
飯を食べ終え、いよいよドラム缶風呂体験で
す。まずはもちろん隊長が体験。さすが隊長。
余裕だった様です。水着に着替え、小雨の降
る中さあ出発。真っ暗なお風呂場。順番を待

っている子にとって耳からの情報だけが頼りです。緊張して順番を待って、さあ僕の番だ。が、どうやって入っていいのかわかりません。「板が浮いちゃうよ～。沈まないよ～」どうにかお湯につかるとどの子も満面の笑み。「あったか～い、気持ちい～い。」そうだね、蒸し暑い中、駅からの坂道は大変だったし、ハンモック作りでは、ひたすらまき結びと本結び作業に集中していたもんね。全員入り終わった時、私たちは、汗べたべたで、服もお湯でべたべた。さてデンリーダー三人のお風呂体験は…もちろん秘密です。



◇「夏季舎営」

春日井 8 団 カブ隊
くま 西村 海斗

8 月 22 日から 24 日まで、立山に舎営に行きました。ぼくは今回の立山登山は山頂に登ることができるか心配だったけど、楽しみでもありました。登り始めて 1 時間ぐらいたら、少し足が痛くなってきて本当に登ることができるか心配になってきました。そのうちに道は岩だらけの急な斜面を手も使って登るようになってきました。ぼくはロッククライミングみたいで、楽しくなり足が痛いのも気にならなくなりました。山頂に立つと周りの山々はとても美しく、きれいな景色が見られてとてもうれしかったです。隣にいたおじさんがもって晴れていれば富士山も見えるんだよ、と教えてくれました。富士山が見えなかったのが残念でした。立山の頂上に立てて本当によかったです。



◇「リベンジ」

江南 1 団 ボーイ隊
山本 圭

ぼくは 1 月にいるか池にわかさぎつりに行った。昨年と同じ場所でつりをしたが結果は、0 ひきだった。くやしかった。その分今年は、気合が入る。結果、わかさぎは 3 ひきだった。少なかったけれどもうれしかった。ブルギルという魚も 5 ひきつれた。



食べれずざんねんだったが、つれてよかった。その後のごはんは、とてもおいしかった。ボートもこぎターゲットバッチに近づけた。一石二鳥でした。来年もあれば、わかさぎをつり、ターゲットバッチもとっていき、現在 1 級なので、菊章を取れるようにしていきたいです。

◇「サイクリングの思い出」

春日井第4団 ボーイ隊
イーグル班班長 市川 清花
4年間ボーイ隊で活動しました。今振り返ってみると、隊長がおっしゃった「後になって思い出すのは、楽しいことよりつらいことなんだ」の通り、思い出すのは1年目のサイクリングのつらい思い出でした。「大丈夫か。」後ろから先輩が言います。「大丈夫。」でも、そう言っても前との差が縮みません。私の事を心配してくれる先輩たちの優しさが身にしみて、どうしたらこの重い足を速く動かせるのかひたすら考え、自転車をこぎました。それから3年たち、私は班長としてサイクリングに行きました。私は初級スカウトの後ろで自転車をこぎます。頭の中で1年目の自分を思い出し、今の自分と重ねました。あのころは見えなかった広い景色が見えます。あのころの私はもういません。たくさんの人たちと話した経験が今につながっています。隊長はこうもおっしゃっていました「学年が上がるほど楽になるので、その分下の子を見ることが出来るんだよ」と。つらかったこともあるけれど、ボーイ隊では様々な経験を積むことが出来ました。そしてこれからも積んでいきます。ベンチャー隊が楽しみです。



◇「初めてのデンコーチ」

江南第1団
ボーイ隊 中村 稔
3月23日に、第2回尾張東地区カブラリーにデンコーチとして、森林公園へバスに乗って行きました。デンリーダーさんの指示がし

っかりと出ていて、自分から指示を出すのではなく、出された指示をみんなに伝えたり、注意することぐらいしかできず、これでいいのかと思いました。でも、最後にありがとうと言ってもらえることができ、よかったです。そして、デンリーダーさんたちが、カブの子たちをしっかりと集めて、指示を出しているのを見て、自分達の班の中で、どのように班員をまとめて、指示したとおりに動いてもらうのかが少し分かりました。なので、これから、デンコーチとして、カブ隊の活動に参加しながら、ボーイ隊の班長として、班員をまとめあげていきたいと思っています。



◇「台湾草屯交流活動に参加して」

B S 犬山第5団
B S 隊副長 杉本 真教
犬山のボーイスカウト・ガールスカウトは台湾の草屯にある中学校3校と30年近く交流活動をしています。毎年相互に行ったり来たりして、ホームステイをしています。今年台湾から22名のスカウトが来犬して犬山野B S、G Sと日本文化を体験してもらいました。和菓子を作ったりお抹茶をいただくために正坐をしたり、ゆかたを着付けしてもらい犬山焼の絵付けに挑戦してもらいました。言葉が通じない中で、ジェスチャーや英語？でふれ合いました。台風が近づいている中での活動で、計画した活動ができなかったですが、今後の人生にとってプラスになる体験や経験が出来て良かったと、参加したスカウトが反省していました。



歓迎セレモニー



お抹茶



犬山城見学

◇「ボーイスカウト活動で

大切にしていること」

春日井第4団ボーイ隊

イーグル班次長 今野 敬太

僕が日々のスカウト活動を通して大切にできたことは感謝の気持ちです。活動ができるのも、リーダー、親、仲間、団委員さんたち

のおかげだと思っています。これまで感謝の心を忘れないで活動してきました。だから日々の日常でもその気持ちを忘れないようにになれる人になりたいです。



◇「春日井4団ボーイ隊」

春日井第4団ボーイ隊

オカミ班班長 横井 悠介

自分は今季、班長をやりました。一番大変であり、楽しかったです。色々な事がありました。大雨の中のサイクリング。ほとんど大雨の夏季キャンプなど。そんな中で、後輩の成長が見れました。その中で、一番印象に残ったことがあります。自分が不在の時、初級二人でテントを立ててくれたそうです。その二人の来年がとても楽しみになりました。ボーイスカウト生活で自分はたくさん成長しました。



菊章ももらうことができました。菊章はリーダーの方々がいないと絶対とれません。自分の場合は、活動にあまり出れなかったのですが、リーダーの方々があれこれやってくれたおかげ

げです。ありがとうございます。この4年間はとても充実したものになりました。ベンチャー隊では、足を引っ張らないよう、がんばりたいと思います。

◇「大変だった一年」

春日井第4団 ボーイ隊

コブラ班班長 井高 直輝

この一年を振り返ってみてよく班をまとめられたと思いました。班のメンバーは、まとまりがなくすぐ遊ぶ、喧嘩する、指示を聞かないと大変でした。しかし、指示の仕方や班員を見切れてないなど僕が悪かったと思います。なので、この一年を振り返ってよく考えて、上班になれたときに実践していこうと思います。ベンチャーに上がったなら2つの事に挑戦しようと思います。一つ目は、富士章を目指すことです。二つ目は、一つでも多く技能章を取得できるよう努力することです。この二つのことが達成できるよう頑張りたいです。



◇「夏の団キャンプ」

江南第1団ボーイ隊

山本 圭

8月1日～3日の3日間、長野県の「松川青年の家」に行き団キャンプを行いました。真夏のわりにすずしく、快適でした。天気もほとんど良かったです。印象的だったのは、やたらと「あり」が多く驚きでした。一番の思い出は、2日目のアスレチックで木と木の間に張ってあるワイヤーを伝い、さまざまな障害物を越えていく遊びです。年齢制限小学4年生からで、身長は140cm以上で体重は

130kgまでという制限があります。大人1人と子供2人までのペアで行いました。そして高さは、かなりあり、ハーネスをつけていても、不安定で伝ったり、飛んだり、すべったりすると楽しく、時間も忘れ、2～3時間くらいで4つのコースを回りました。その後は、カレーを食べて、キャンプファイヤーをしました。僕たちBSの出し物は、考えていた物がCS隊と同じだと気づき、急に変更する事になって、あせり、ぐだぐだになってしまったけど、なんとかできました。その他に、工作や料理や、川でつかみ取りしたマスをナイフでさばいたりしました。夜間ハイクでは、星がめちゃくちゃ見え、「ひしゃく」がきれいに見えました。



編集後記

週末ごとの雨で夏の活動プログラムの変更、修正を余儀なくされたところも多かったことと察しますが、にもかかわらず、読む人に元気を与えてくれる記事を沢山出していただき、スカウトの皆様本当にありがとうございました。

「晴れの日には晴れの日良さがあり、雨の日には、雨の日しか体験できない良さがあるのだから、どちらも素晴らしい日である」と私がスカウトであった頃、隊長が雨の日によく言っていたことをふと思い出しました。